

神戸新聞 2022年02月04日 金曜日 面名 神戸 14 21ページ

阪急神戸三宮駅北で市と学生ら ぼい捨てゼロ目指し実証実験

ぼい捨てゼロを目指してさんきたアモーレ広場に設置された「仕掛けごみ箱」と、手掛けた県立大の学生ら＝中央区加納町4（市提供）



ごみのぼい捨てゼロを目指し、神戸市と企業、大学生が工夫を凝らして制作した「仕掛けごみ箱」で、市民の行動にどう影響するかを調べる実証実験が、阪急神戸三宮駅北の「さんきたアモーレ広場」で行われている。おしゃれなデザインで、感謝の音声流れるなど「捨てたくなるごみ箱」を21日まで設置。ぼい捨て状況の変化などを調べて公表し、環境美化の機運向上につなげる。（初鹿野俊）

ごみ箱から感謝？ 正しく捨てよう

投入すると音声、デザインも工夫し喚起

約1カ月の実験期間中、音声や看板の有無などの条件を1週間ごとに変えながら、学生らがぼい捨て状況や仕掛けごみ箱の中身の量や内容、どんな人が捨てたかなどを調べる。

市は「調査結果を公表することで、ぼい捨てに悩む公園や施設の管理者らに解決方法の選択肢を示しながら、市民の環境意識も高められれば」としている。

ごみ箱は、P&G製品の製造工程や使用済み商品から回収したプラスチックを原料とし、燃えるごみ用と缶・びん・ペットボトル用の各2個を用意した。ごみが投入されるとセンサーが反応し、神戸弁や英語などで感謝のメッセージを流す機能を備える。学生らがデザインし、外観には六甲山や神戸ポートタワーなどをあしらった。ぼい捨てが多い広場周辺3カ所で仕掛けごみ箱利用を誘導する看板も、学生らが手掛けた。

同広場は昨秋のリニューアル前からぼい捨てが課題で、市は解決を模索。包括連携協定を結ぶP&Gジャパン（中央区）から、好奇心をかき立てられる「仕掛けごみ箱」の導入を提案され、知見を持つ県立大国際商経学部黒川博文講師（行動経済学）に協力を仰いだ。県立大生のほか、知的交流拠点「アンカー神戸」を通じて募った他大学の学生らと、仕掛けごみ箱を設置することになった。

中央区

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①実証実験として阪急神戸三宮駅北の「さんきたアモーレ広場」に置かれているものは何ですか。

②それは何を指して置かれましたか。

③設置したのはどこの学生ですか。

④どのような工夫がされていますか。2つ書きましょう。

⑤記事のようなごみ箱の案を自分で考えてみよう。